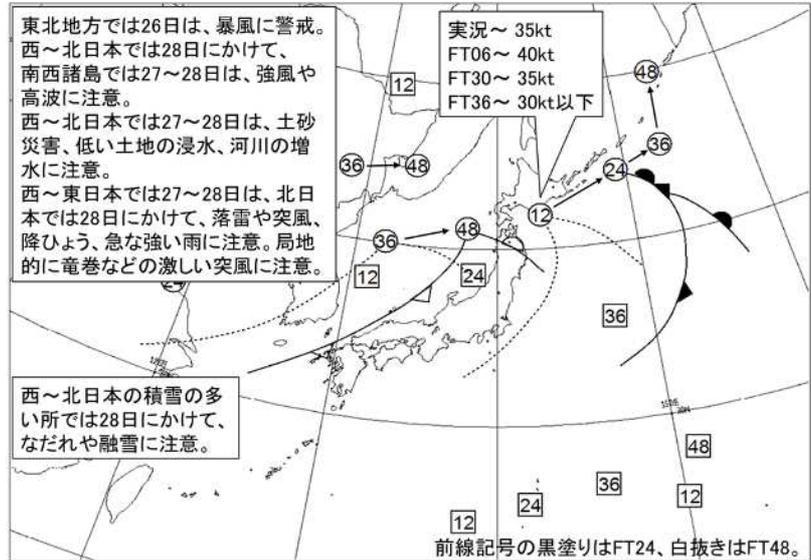


1. 実況上の着目点

① 沿海州付近から日本海には500hPaで-24℃以下の寒気を伴った5280～5460mのトラフがあって東進。対応する前線を伴った低気圧が日本海にあって東北東進。また、日本の東にも低気圧があって東北東進。これらの低気圧と日本の南の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、西～北日本ではやや強い風や強い風が吹いて、波が高くなっている所がある。

② 衛星画像では、東シナ海～日本海～本州付近にかけて黄砂の飛来が確認できる。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 26日は、1項①のトラフが東～北日本を通過し日本の東に進む。対応する前線を伴った低気圧が日本海を東北東進し、千島近海まで進む。これらの低気圧や前線に向かって日本の南の高気圧縁辺を回る下層暖湿気が流入し、上空寒気の影響も加わるため大気の状態が不安定となる所がある。北日本では26日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

② 27～28日は、500hPa 5400m付近の強風軸に対応する低気圧が前線を伴って発達しながら日本海を北東進し、北日本を通過する。低気圧や前線に向かって流入する大陸起源の下層暖湿気(850hPa θ_e 327K以上)と日本の南の高気圧縁辺を回る下層暖湿気(850hPa θ_e 336K以上)が流入し、大気の状態が非常に不安定となるため、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。西～北日本では27～28日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。西～北日本では27～28日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

③ 2項①や②の低気圧周辺及びこれらの低気圧と2項①の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風や非常に強い風が吹いて、波が高くなる所がある。東北地方では26日は、暴風に警戒。西～北日本では28日にかけて、南西諸島では27～28日は、強風や高波に注意。

④ 西～北日本では、850hPaで+6～+15℃(平年差で+10～+15℃程度)の暖かい空気が流入し、雪解けが進む。西～北日本の積雪の多い所では28日にかけて、なだれや融雪に注意。

⑤ 1項②の黄砂は、26日は西～北日本へ飛来する。視程の悪化による交通障害に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。
4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。③ 波浪(明日まで)：関東4、北海道・東北・伊豆諸島・東海・北陸・中国・九州北部3m。④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。